

旧軍の規律はマニエアでいたことは知られてい
 ルによって拍保されているが、たとえば、拳丸は
 た事実に変更して気付かせ 跨下(スポン下)の左に
 られる本。入隊から戦場 入れる、大便是朝に行い
 まで、起床から就寝に至 昼に行く習慣をつけな
 るまで、兵營の一日、年 い、敷布は洗濯するたび
 間スケジュールを写真3 に上下を反対にして使用
 50枚と図版を駆使し、 するなど、「そこまでや
 こまで解説した書物は るか」という感じ。
 例がないだろう。

とりわけ、陸軍が人間
 の知能を「英才」「普通」
 入浴、食事、洗濯の作
 法など初年兵に対する日
 常指導が徹底的に行われ
 鈍(ウスノロ)」「遅鈍

新刊紹介

つにランク分けし、「低 女に囲まれ悦に入る分遣
 能兵の教育」をシステム 隊長、登楼時に待合室で
 チックに行っていたとは 相好を萌す将校など、人
 驚きた。
 間臭いシーンも盛りだく
 豊富な写真資料の中に さんだ。(光人社刊、2
 は、全員がのらゝの扮 520円)

「東北は負けない」

—歴史に見る『弱者の逆襲』—

星 亮一著

著者は福島民報記者、 11以降の検証を自らの足
 福島中央テレビ報道制作 で試みた前半のあと、後
 局長を歴任した東北在住 半は「虐げられた」東北
 のジャーナリスト。3. の歴史とその逆境の中か
 沢賢治、原敬、後藤新平
 岩手県が生んだ総理の数
 は4人で山口県に次いで
 全国2位という。
 東海新報の4月28日付
 コラム「誰もがいやがる
 ような仕事を黙々とこな
 し、仕事が終わればテン
 ト生活という毎日を強い
 られる。なのに自衛隊な
 どというおためごかしは
 やめて陸海空軍とすべき
 だろう」なども紹介。元
 記者だけに地元各紙への
 目配りも行き届いてい
 る。(講談社刊、880円)

「人間」にスポットが当

てられる。
 東北への冷遇は、会津
 藩が敗れた戊申戦争を機
 に始まったという。薩摩
 ・長州勢は「白河以北一
 山百文」(東北の山は百
 文の値打ちしかない)と
 蔑んだ。日露、太平洋戦
 争でも東北から召集され
 た部隊は最前線に送られ
 たという。

しかし、明治以降、新
 渡戸稲造、石川啄木、宮
 目配りも行き届いてい
 る。(講談社刊、880円)